

京林大だより

No.27



絵：卒業生 熊走君

今年も賑やかにオープンキャンパス開催

7月31日(日)今年も好天に恵まれオープンキャンパスを開催しました。

北は長野から南は鹿児島まで、入学希望者とその家族36人の参加があり、学校概要の説明や施設の案内、個人相談、高性能林業機械の運転体験など、大変暑い中、大汗をかきながら熱心に取り組んでいました。

又、林大生達も林業機械のデモンストレーションや個別相談に一生懸命対応し、京都林大をPRしてくれました。

来年には、この中からたくさんの新入生が生まれることを期待したいと思います。

なお、今年はオープンキャンパスだけでなく、学校説明会も7月から8月の土日に5回行いました。



施設案内では、実習棟にある様々な用具の説明を受け、触ってみたい大きなチェーンソーの重さにビックリしていました。



京丹波町の紹介を、京丹波町和知支所の方々にしていただきました。



林大生によるチェーンソーの実演には、参加者みんなが引き込まれていました。



個別相談では、先生だけでなく林大生からも授業の様子や学生生活について熱心に聞いていました。



ハーベスタには何人もが試乗し、新しい林業の姿にちょっぴり触れていました。

林政ニュース

京丹波町を対象にした「ITデータを活用した森林管理の高度化・合理化に関する実証的研究」が京都府立大学の「地域貢献型特別研究」に選ばれ、9月5日（月）に関係者が集まって道の駅「和」道路情報センターで初めてのセミナーが開催されました。

森林の地形や木の本数、高さなどの森林情報が、航空レーザー測量など最新の技術によって格段に正確になり、これから間伐などの森林管理にどのように生かされていくのか楽しみな研究になりそうで、林大も教材研究に取り組みます。

8月20日わちふるさと祭りに参加

丸太切りに子ども達も挑戦。大勢の方に参加していただき、用意していた記念品がほぼなくなりました。



初めて鋸を使う子どもも！でも一生懸命でした。

セミナーでは、連携して研究を行う京丹波町長を始め京都銀行・京丹波森林組合・京都府立大学・京都府立林業大学校の代表が揃って記念撮影が行われました。



今月の授業参観 『樹木実習』

日本の森林は、非常に多様な樹種で構成されています。それらの樹種を識別できることは森林や自然を知る基礎となり、森での生活を豊かにすることにつながります。

樹木実習では200の樹種の識別を学びます。



福知山市の田倉山で採集した樹木の確認テストをしています。



校長室より

リオ・オリンピック開会式 校長 只木 良也

リオ・デジャネイロ、第31回オリンピック開会式。8月6日午前(日本時間)、TVで観て参加しました。

財政難、大統領停職中で欠席、不安な社会情勢、その他色々ある中ながら、なかなか見事な、盛り上がりの開会式でした。本場カーニバルの華やかさもさりながら、その一方で環境問題・自然大切をベースにする開会式の演出にちょっと感嘆した次第。

大アマゾン熱帯林を抱える国だけに、森林破壊、その回復、地球温暖化問題、海面上昇予想などの映像が…。そして、会場内を巡って緑の苗木に辿りつく少年。

各国選手団入場行進の先頭、国旗の横にはそれぞれ緑の苗木を携えた少年少女が…。オリンピック記念の森を作るとか。

入場選手は個々に、植物の種を大きな枠組み箱に蒔く。開会式進んで、会場中央に集められた箱を開くと、なんと中から出てきたのは大きな緑の木々、それが五輪マークを成して整列…。

ブラジルは、1992年、「国連地球環境サミット」の開催国。このサミット、あの「持続可能な…」のフレーズで世界にアピールし、「気候変動枠組条約」や「生物多様性条約」が提起され、その後の世界レベルでの環境活動へと発展しました。

20年後の2012年には「国連持続可能な開発会議」が同じリオで開催され[リオ+20]と呼ばれています。

そうした因縁もあってか、ここまで「環境」を取り上げたオリンピック、世界最初？と、妙な感激。